



日本クリスチャン・アシラム連盟

# 日本アシラム

アシラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリストの新しい祈禱運動である。

開心 ・ 静聴 ・ 充滿 ・ 献身 ・ 奉仕

〒 181-0011 東京都三鷹市井口 3-15-6 池の上キリスト教会内 日本クリスチャン・アシラム連盟 振替口座 東京 00100-1-4558

## インド・サトタルツアーの意味



日本クリスチャン・アシラム連盟 副理事長  
日本同盟基督教団 大分恵みキリスト教会  
牧師 岡山敦彦

日本のアシラム運動には二つのグループがあります。日本クリスチャン・アシラム連盟とアシラムセンターです。アシラムセンターは、三浦綾子著「ちいさな先生物語」で有名な榎本保郎師が始められました。二つのグループは長年それぞれの働きを推進してきました。共にインドでスタンレー・ジョーンズ博士が始められたアシラム運動にルーツがあります。今まで、二つのグループがもっと協力してこの思いはありましたが、なかなか実現に至りませんでした。

最近数年の間に、協力が芽生え始めました。二〇一五年九月、御殿場東山荘で開かれた連盟創立六〇周年記念全国アシラム大会にスタンレー博士の孫娘のアン・マシューズ女史が参加されました。その時、故榎本保郎師のご子息榎本恵師も参加してください、全国大会の後もアシラムセンターのアシラムにアン女史が参加されました。

アシラムセンターの大切な二〇一四年の年頭アシラムに、連盟理事長横山義孝師が奉仕されました。その後二〇一九年の年頭アシラムに九州アシラムの岡山が助言者として奉仕しました。また、二〇一八年九月の九州アシラムにアシラムセンター主管牧師榎本恵師が助言者として奉仕してくださいました。さらに二〇一九年九月、榎本恵師

とを願っています。私が関東アシラムと九州アシラムの助言者の奉仕をしてください、牧師間の交わりが深められています。私が責任を持っていきます九州アシラムにもアシラムセンターのメンバーが参加してください、信徒の交わりもごく自然になされています。このように交わりの中で、榎本恵師と岡山の間で、アシラム発祥の地インド・サトタルでのアシラムを開催しようとの話が持ち上がりました。これは、連盟とアシラムセンターが今後一層交わりと協力を深めたいく上で、良い企画になると両者が確信していることです。

二〇一九年三月の理事会で承認され、それぞれの責任者に榎本恵師と岡山が立てられることになりました。さらに、感謝なことに、アン・マシューズ女史がアメリカから参加してくださいることになりました。すでにチラシも作成され、参加者の募集をそれぞれ始めています。二〇二〇年四月一日出発、二つのアシラムで定員二十五名ですので早めに申し込みください。インド・サトタルの三泊四日のアシラムが主によって祝福され、今後の交わりと協力の礎となることを願っています。

## 霊 想

### 神に倣う者となりなさい

愛されている子どもらしく

エペソ四・三二〜五・一

この欄に寄稿することを許された機会に、いま筆者が一番感銘を受けている聖句について記させていただきます。それは表題に後半部のみを掲げたエペソ人への手紙四章三二節〜五章一節です。『新改訳二〇一七』の訳文で引用すると、「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださいましたのです。ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい。」この聖句はたった二節ですが、現在の章節の区分では、四章から五章にまたがっています。この区分が設けられたのはずっと後になってからで、ほとんどは適切に区分されています。しかし人間の都合も筆者からすれば、章の区分を誤ったのではないかと思えます。引用文を見ても、これが一連の文章であることは一目瞭然であります。筆者は五章二節までを四章として区切ればよかったのに、と思つて



日本長老教会  
引退教師

村瀬俊夫

おります。(おつと閑話休題、急いで本題に入りましょう!) ここで「神に倣いなさい」と勧めておられる神は、キリストにおいて私たちを赦してくださった慈愛の神です。その慈愛(優しい心)は「赦し」、しかも無条件・無制限の赦しとして示されているものです。ここで、読者に問います。あなたはこの豊かな赦しをキリストにあつて体験していらつしやいますか。キリスト者であれば、だれしも大なり小なり、この体験をお持ちでしょう。できれば、この体験が小であるよりも大、希薄であるよりも濃厚であることが望ましいのです。この体験が大であり濃厚であるほど、キリストにあつて神に愛されている子どもである、という感覚を鋭敏に抱くことができるからです。当該聖句の冒頭には、「互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい」と勧められています。この勧めの実践こそ、神がキリストにあつて私たちに求めておられることなのです。この勧めが実践できるように、「神も、キリストにあつてあなたがたを「無条件・無制限に」赦してく

くださったのです。」そのことを熟知していればこそ、喜んで当然それに従ってくれることを期待して、「ですから、愛されている子どもらしく、神に倣う者となりなさい」と勧められています。現代は、特に家族(夫婦や親子)関係において、この勧めの実践が急務とされているように思います。夫婦関係においては、互いに相手を褒め合うことが愛を示す最善の道です。親子関係においても、親は子を褒めることにおいて愛を示すことができます。褒めることは最高の赦しと愛の行為なのです。子が親の愛を感じるのを、褒められることで自分が認められていることを感じるときです。そのため親に求められるのは、キリストにある赦し(自己承認)をいよいよ豊かに体験することではないでしょうか。日々、キリストがヨルダン川で洗礼を受けたとき天からお聞きになった声を、あなたもキリストからご自分に親しく語られる御声として、心の奥底で聴くようにしてください。その御声とは「あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」(マルコ一・一一)です。



## 神様の恵み



日基  
新宿西教会  
新宿西教会

川村秀夫

この私にとって八十八年間の神様の恵みとは何だったのだろうか？

神様から健康が与えられ、日々神様に支えられながら生活を送ることが許されていることではないかと思う。この恵みを感じたい。肉体的にはかなり衰えて来たと思う。物忘れや記憶力減退が同年代の人達から見ると少し劣ってきたと感じることが多いが、そこそこ生かして頂いていることを感謝したい。

七〇歳台の更新時はほとんど何の問題もなく免許が交付された。瞬発力は同年代の人達からは若干劣っていたがそのほかは年齢よりも15歳若いと褒められて良い気分になった事を思い出す。昔から運転はそんなに上手な方ではなかったが大きな事故もなく五〇年近く優良ドライバーとして免許証を交付されていた。

そんな中での出来事である。今から4年ほど前の事である。運転免許証の更新の時、今から思うと本当に不思議としか思えないことがあった。

その年の十一月が私の最終免許証の更新月であった。夏の疲れが残っていた状態で教会の秋の

イベント準備などに携わっていた。九月の下旬に運悪く悪性の風邪をひいてしまった。微熱と激しい頭痛に見舞われたがそれを我慢して作業に従事していた。医者には入院も勧められたがそれを断り仕事を続けた。しかし体調が悪化したので、予定していた自動車教習所の予約を延期し、仕事をこなしながら治療にあたった。だが一向に良くなり遂に入院の羽目になった。丁度その時、最終の教習所の試験日でもあった。かくして遂に運転免許証の失効を迎えてしまった。当時としては本当に残念でならなかった。私には頑固癖があり、特に運転免許証には強いこだわりがあった。免許証を持つていれば教会の奉仕も出来るし、自分の好きな所へ自由に行ける。だから病気をしていたなかつたら家族の反対があつても絶対に運転免許証を更新し運転を続けていたと思う。しかしよく考えて見るとこれは神様の私に対する素晴らしいプレゼントであったと思う。神様は病気を通して静かにこの頑固な私を諫めりセットして下さったのである。何と素晴らしいプレゼントであろうか。感謝、感謝。  
「プライドが高すぎると身を滅ぼし、なまじきなことばかりしていると失敗します。」

箴言一六・一八 リビング・バイブル訳

## 函館栄光キリスト教会

## 第十一回ミニ・アシラム報告



単立函館栄光キリスト教会

牧師 佐々木雄二

当教会の第十一回ミニ・アシラムは、二〇一九年一〇月一四日、助言者に日本基督教団東大阪教会牧師脇田眞一師をお迎えして、「御言葉に聴従する者は永遠の命を得る」(ヨハネ六章五四節)を主題に、部分参加も含め二七名(うち他教会からは六教会、九名)が出席しました。助言者の脇田師は、ヨハネ福音書六章五三―五五節の御言葉を中心に説き明かされ、「大事なことは、御言葉を食べることだ。食物を口に含んだだけで吐き出しては、何の栄養にもならない。飲み込むことにより、血となり肉になる」。「御言葉に従うことが自分の損になると思える場合でも、信じて従っていると、思いに勝る祝福が与えられる」。「悩みを打ち明け、一緒に祈ってくれる『祈りの友』が大切だ。わたしは恩師と言えるよい導き手が与えられた。毎週土曜日に二時間、わたしの職場の苦勞を聞いてくださり、御言葉によって助言や励ましを与えてくださった。おかげで、月曜日

には元気で出勤できたと話されました。厳しいサラリーマン生活をすごされた脇田師ならではの証しと説き明かに、聞く者たちは大いに励まされました。

出席者の大半は

継続して出席されている兄弟たちで、ごく自然に心を開き、互いのニードを話し合って祈り、祈りの細胞で一緒になった人たちは、集会の後も互いのニードを覚えて祈り続けています。「『聖霊の導きへの依存』を確かなものにした」という出席者一人一人の願いが、次第に現実になつてきているようです。さらに深く「イエスは主である」と言い表す交わりに与ることができるよう、また、このアシラムが、ささやかでも「祈りの道場」としての役割を担うていけるように祈っています。



### 恵みの導きに感謝

引退牧師

池ノ上キリスト教会

千代崎聖子



六十年余の教団の任命を終え、牧会地を離れて三鷹の地に移り、池の上教会に迎えていただきました。それとアシラムの集会にも出席することができました。

戦後まもなく教会が復興し、ホーリネス教団の救いに与り、主のご計画の中に選ばれていることを知り、喜びと感謝に心が燃え、宣教の責任を重く受とめたのでした。直接の働きから引退した今もその思いは変わりません。

池ノ上教会に来てからアシラムの集会に出席させて頂き、今まで深く思っていなかった信仰のあ方に改めて気づかされました。

アシラムとは勤労の生活から退き、神に聴き、神と交わり、神の恵みに与る、そして信仰生活の基本を学び、神との交わり、兄弟姉妹との交わりを深めることができました。

牧会を退いてゆっくりしていた者に新しい歩みに導かれ感謝でした。

アシラムでのグループ(祈りの細胞)で自らのニード(与えられている問題)を語り、祈り合う、重荷を分かち合うことも、日頃の祈りに加えられた恵みです。中でも開心の時、静時、福音の時、充滿の時などそれぞれの集まりで恵みを分かち合い、感謝を捧げ、主の恵みと聖霊の力に満たされる良い経験をつませていた

できました。

みことばを頂く時、私に対する主のお心と受け止めてお従いして行きたく願っています。

主のご愛と慈しみの中に、また教会の兄弟方の愛と労わりの中に置いて頂いて、ここに導かれたことを心から感謝しております。

「おことばどおりこの身になりますように」  
(ルカ一章三十八節)

#### アシラム予告

●第24回連盟定期理事会

とき 1月23～24日

池ノ上キリスト教会

●第51回城北アシラム

とき 2月11日

場所 新宿西教会

今後予定されていますアシラムは次の通りです。

6月 浦和別所教会

仙台青葉荘教会

7月 横浜岡村教会・西

川口教会

9月 九州アシラム・

関西アシラム・

関東アシラム

10月 東京新生教会・函

館栄光教会

#### 編集後記

新しい年を迎えました。アシラム連盟が発足し29年のこの年、アシラムセンターと共同で、「インド・サトタルへの旅」が計画されました。教会が疲弊し、教員が高齢化、宣教活動が停滞している今、スタンレー・ジョーンズ博士が来日し、祈りの運動から始まり、アシラムを始め下された原点である、インドへ行ってアシラムを歩きましょう。詳しくは同封してありますチラシをご覧ください。